

# 地域活性学会 2019年度総会

(敬称略)

司会進行：桂信太郎（本部理事／事務局長）

日時：2019年9月14日（土）12:30～13:00

会場：大村市コミュニティセンター（大村市中央公民館）さくらホール（第1会場）

## 次 第

1. 大会実行委員長挨拶  
長崎県大村市長 園田 裕史氏
2. 来賓挨拶  
長崎県副知事 平田研氏
3. 議長選出  
中嶋開多会長
4. 報告事項  
2018年度活動報告
5. 審議事項  
第1号議案 2018年度決算承認の件  
第2号議案 2019年度予算案・事業計画案承認の件
6. 次回開催地紹介  
金沢星稜大学 池田幸應教授

総会は委任状を含めて5分の1以上の出席があり、有効に成立しました。

総会上程議案は当初議案通り承認されました（事務局）。

## 1. 報告事項:2018年度活動報告(前回大会以降～2019年度総会迄)

### (1) 地域活性学会の活動

地域活性学会は、

- ①地域活性化を担う専門的な人材の育成（教育）
  - ②地域活性化の理論と方法の学際的な探究（研究）
  - ③地域活性化に関する研究成果の地域への還元（地域貢献・政策提言）
  - ④地域活性化に関する国内外の研究ネットワークの構築（国内連携・国際交流）
- の4点を柱に据え、活動しております。

これらの活動を推進するために、下記委員会を設け、研究と交流を進めています。

#### ・総務・企画委員会

役 割：学会の運営全般、研究大会、理事会等の運営

委員長：那須清吾、副委員長：木村乃

- 活 動：①学会の将来構想検討委員会を設置して、事務局業務の見直し等を検討  
②学会誌のあり方委員会を設置して検討  
③理事公選制の検討

#### ・広報・交流委員会

役 割：①学会の活動内容・成果を広く国内外に発信

- ②地域間交流、国際交流を推進
- ③地方創生セミナー・会員交流会等の開催
- ④会員増強

委員長：御園慎一郎

- 活 動：①10周年記念誌の作成  
②ニュースレターの発刊

#### ・研究推進委員会

役 割：①各種研究活動の推進

- ②研究大会を開催校と協働で企画・推進

委員長：館逸志

- 活 動：①大会の企画運営  
②地方創生セミナーの企画運営

#### ・学会誌編集委員会

役 割：学会誌「地域活性研究」を年1回募集、査読、編集、発行  
(2019年度から年2回発刊)

委員長：小野浩幸

- 活 動：①研究誌の発刊  
②研究誌の諸規定の整備

(2) 2018年度活動実績(前回大会以降) ※敬称略

① 第10回研究大会

第10回研究大会(拓殖大学)

会期:日時:2018年9月13日(金)~15日(日)

会場:拓殖大学文京キャンパス(東京都文京区・茗荷谷)

大会テーマ:「地球時代の地域活性~世界の中の地域、地域の中の世界」

実行委員長:館逸志(地域活性学会副会長、研究推進委員長)

参加者数:257名(ニュースレター240館理事による集計結果)

② 理事会

2018年度第4回理事会

日時:2018年11月12日(月)17:00~19:00

会場:事業構想大学院大学 別館4F

■議題

1. 挨拶 中嶋副会長
2. 新事務局の公募について
3. 新理事選挙の細則について
4. 学会誌への投稿状況について
5. 10周年記念誌の進捗について
6. 第11回研究大会・総会(大村市)の企画内容について

2018年度第5回理事会

日時:2019年1月29日(火)17:00~18:00

会場:事業構想大学院大学 別館4階

参加(敬称略、順不同):中嶋、館、御園、伊藤、上西、池田、小野、木村(乃)、橋本、穂刈、吉川、鶴飼、【Skype】那須、林

■議題

・中嶋会長よりNPO法人社会貢献研究所に事務局を委託することが決定。新たな事務局体制への移行を機に、今までのような委託業務範囲を超えた事務局への依存を脱し、各委員会が主体的に計画と推進を行うことが確認された。

2. 第11回研究大会について

・館研究推進委員会委員長より、1月18日の研究大会実施団体(大村市)との協議を踏まえた企画案が報告された。

・第12回研究大会金沢市の受け入れについて、金沢星稜大学の池田理事より報告された。

3. 学会誌査読状況について

・本年3月発行予定の学会誌「地域活性」について、小野委員長より資料3に基づいて投稿・審査状況の報告がなされた。

4. 10周年記念誌の進捗について

5. その他 各種報告

・北海道支部が2月27日に小樽商科大学サテライト教室にて開催されることを報告。

・3月19日に地域活性学会設立10周年記念・地方創生特別セミナー(場所:事業構想大学院大学)増田寛也氏を講師に開催されることを報告。

2018年度第6回理事会

日時:2019年3月19日(火)17:00~18:00

会場:事業構想大学院大学 別館4階

参加者:中嶋、御園、館、那須、上西、寺田、橋本、吉川、今瀬、石川、伊藤、穂刈、木村、小野、坂井、白石、桂、鶴飼

■議題

1. 公選制について
2. 事務局移行について
3. 今後の理事会日程と場所の確認
4. その他(①研究大会の充実、②研究の質を高めるには)

2019年度臨時理事会

日時:2019年4月17日(水)17:00~18:00

会場:高知工科大学東京校(〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6-309室)

出席:中嶋、御園、館、那須、伊藤、小野、木村(乃)、坂井、白石、松本、吉川(11名)、

【スカイプ参加】鶴飼、林(2名)【遠隔会議システムにて参加】桂、加藤、寺尾(事務局挨拶部のみ)(3名)

■報告事項

1. 選挙人名簿の確定作業の状況について(那須副会長より)
2. 電磁的方法による選挙のためのシステムの選定状況について

■審議事項

1. 理事候補者選挙管理委員の設置及び同委員の指名について
2. 理事会申し合せ  
(1) 理事候補者選挙管理委員会の役割に関する申し合わせ  
(2) 選挙人の確定に関する申し合せ  
(3) 委任状を電磁的方法により提出することを可とすることに関する申し合せ  
(4) 理事候補者被推薦人の資格に関する申し合せ
3. 細則の改正
4. 8/29臨時総会の開催について

2019年度第1回理事会

日時:2019年5月31日(金)17:00~18:00

会場:高知工科大学東京校(〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6-309室)

出席:(敬称略、順不同):中嶋、館、那須、御園、伊藤、松本、橋本、関幸子、久保田章一、酒井、寺田、小野、木村(乃)、山本、桂(15名)、大村市から山下部長および松尾係長(2名)、計17名、【Skype】鶴飼(1名)

■議題

1. 第11回研究大会について予算案
2. e-選挙について
3. 理事公選日程の理事レベルでの共有(理事公選制スケジュール)
4. 理事公選制移行に伴う内閣府の地域活性学会対応方針
5. その他 各種報告(学会誌査読状況・会員名簿整理状況など)

### 2019年度第2回理事会

日時：2019年7月31日（水）17：00～18：30

会場：高知工科大学東京校（〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6-309室）

出席：中嶋、御園、館、那須、関、松本、池田、鶴飼、山本、石川、寺田、桂（12名）

#### ■議題

1. 第11回研究会 準備状況について
2. 次年度 第12回研究会について（案）
3. 部会セッション概要について
4. 8/29臨時総会の開催について
5. 論文集の外部販売について
6. その他 各種報告（学会誌編集委員会最新情報・選挙管理委員会など）

### 2019年度臨時理事会

日時：2018年8月29日（木）

会場：高知工科大学東京校（〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6-309室）

出席：中嶋、御園、館、那須、小野寺、佐藤、伊藤一、岡本義行、斎藤、レイト、林、小野、木村、松本、関、山本、桂

#### ■議題

1. 会長互選
2. その他

### 2019年度第3回理事会

日時：2018年9月13日（金）

会場：大村市コミュニティセンター（大村市中央公民館）

#### ■議題

1. これからの地域活性学会について（中嶋会長）
2. 予算案事業計画案について
3. その他

## ③地方創生セミナー

### ○地域活性学会 第17回地方創生セミナー

日時：2019年3月19日（火）18:30-20:00

テーマ「人口減少時代の国土の課題」

講師：増田寛也氏

講師略歴：昭和26年東京都生まれ。昭和52年3月東京大学法学部卒業後、建設省入省。平成7年4月岩手県知事（～平成19年4月）、平成19年3月総務大臣（～平成20年9月）等を経て、平成21年4月野村総合研究所顧問、東京大学公共政策大学院客員教授。平成26年9月まち・ひと・しごと創生会議メンバー。

会場：事業構想大学院大学

### ○地域活性学会 第18回地方創生特別セミナー

日時：2019年8月29日（木）18:30-20:00

講師：農林水産省次官 末松広行氏

会場：高知工科大学 東京教室（〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6-309室）

## ④支部（エリア）活動

### 北海道

担当地域：北海道

代表：伊藤一

◇2019年2月27日（水） 北海道支部会

日時 2019年2月27日（水）15：00～18：00

会場 小樽商科大学 サテライト教室

札幌市中央区北5条西5丁目 札幌55ビル（紀伊国屋書店3階）

電話：011-218-6377

<http://www.otaru-uc.ac.jp/hkyomu1/satellite/satellit6.htm>

基調講演 中嶋開多 学会会長

「地域活性学の創造」

学会報告

① 高田 麻依子（札幌中央病院・認定看護師/小樽商科大学博士後期院生）

「地域医療における人材確保の課題」

② 永井 真也（室蘭工業大学 准教授）

「地域産業内コミュニケーションの調査—今治無尽を例に一」

③ 石川 尚美（東京農業大学生物産業学研究所 院生）

「北海道のワイナリー事業の特質と新たなワイン産地形成の可能性」

※終了後、懇親会

### 東北

担当地域：青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島

代表：小野寺純治

### 関東

担当地域：新潟、栃木、群馬、山梨、茨城、埼玉、東京、千葉、神奈川

代表：岡本義行

### 中京

担当地域：静岡、愛知、長野、岐阜

代表：鶴飼宏成

◇地域活性学会の活動をエリア長としてサポート

第16回マイコミュニティフォーラム in 愛知

開催日時：11/17（土）13：00～18：00

テーマ：東海学生 AWARD

会場：愛知学院大学 名城公園キャンパス アガルスタワー10階

名古屋市北区名城3-1-1 ※公共交通機関をご利用ください。

<http://www.agu.ac.jp/project140/campus/access.html>

開場：12時30分 / 開始：13時 / 終了：18時

主催：一般社団法人公益資本主義推進協議会

共催：地域活性学会 / 愛知学院大学地域連携センター

協力：インバスターズサロン / 東海学生団体交流会 / 名古屋わかもの会議

## フォーラムプログラム

- 13:00～ オープニング / 開会挨拶  
13:10～ PICC トークセッション  
13:40～ 東海学生 AWARD プレゼンテーション大会  
16:00～ 特別講演 鬼丸昌也氏  
17:00～ 学生×経営者 大交流会  
17:30～ 結果発表 表彰  
17:50～ 閉会挨拶・記念撮影

## 北陸

担当地域：富山、石川、福井

代表：池田幸應

◇2018年11月23日(金祝) 13:30～17:00(受付13:00～) 北陸エリア支部活動

場所：金沢星稜大学本館 A21・A22・A23 教室 (石川県金沢市御所町丑10-1)

テーマ：地域資源を活かしたまちづくりの推進におけるスポーツの役割

開催趣旨：現在、スポーツを通じた地域活性化に向けた取り組みが積極的に行われており、金沢市においても「金沢マラソン」をはじめ、スポーツを核としたまちづくりへの期待が高まっています。今回のフォーラムでは、「地域資源を活かしたまちづくりの推進におけるスポーツの役割」をテーマとし、関係者とともに金沢におけるスポーツまちづくりの今後の展望について、検討するとともに、更なる連携・協働へのネットワーク構築に寄与することを目的としています。

### 【プログラム】

1. 主催者挨拶・開催趣旨 13:30～13:35 [A21]

池田幸應(スポーツまちづくりフォーラム in 金沢実行委員長/金沢星稜大学人間科学部教授)

2. 第1部 全体会「地域資源を活かしたまちづくりの推進におけるスポーツの役割」

【基調講演】 13:35～14:20 [A21] 「これからの地域づくりと人づくり」

大宮登 (高崎経済大学名誉教授、地域活性学会名誉顧問/日本地域政策学会名誉会長)

【パネルディスカッション】 14:25～15:45 (80分)

コーディネーター 池田幸應 (金沢星稜大学人間科学部教授)

アドバイザー 大宮登 (高崎経済大学名誉教授)

パネリスト ●福崎勝幸 (一般社団法人地域社会活性化支援機構専務理事)

●中黒茂司 (一般財団法人 地域未来創生機構代表理事)

●毛利達彦 (金沢市文化スポーツ局 スポーツ部長)

●武田幸男 (北陸大学経済経営学部教授)

【休憩・移動・フリーディスカッション (15分)】

3. 第2部 分科会 16:00～17:00 (60分)

①マラソン分科会「これからの金沢マラソンを考える」[A22]

コーディネーター 西村貴之 (金沢星稜大学人間科学部 准教授)

プレゼンター 東利裕 (金沢市金沢マラソン推進課 課長)

②パルクール分科会「忍者パルクール 2019 を考える」[A23]

コーディネーター 南谷直利 (北陸大学経済経営学部教授)

プレゼンター 松田光希 (日本パルクール協会会長)

## 関西

担当地域：和歌山、三重、滋賀、京都、大阪、奈良、兵庫

代表：橋本行史

## 中国・四国

担当地域：広島、岡山、島根、鳥取、山口、愛媛、香川、高知、徳島

代表：那須清吾(支部長)、事務局：佐藤暢

◇第5回 地域活性学会中国四国支部会合(支部会・研究会)

\*産学連携学会関西・中四国支部との連携開催で、発表件数計25件、参加者計51名。

<日時・プログラム>

平成30年11月30日(金)

13:00～17:30 発表会(14件の研究発表)

【情報交換会】

平成30年12月1日(土)

9:30～12:30 記念講演会

【基調講演-1】受田浩之氏(高知大学)「これからの地域における産学連携」

【基調講演-2】蓮花一己氏(帝塚山大学)「地域社会の課題とその解決への取り組み」

【基調講演-3】那須清吾氏(高知工科大学)「地域社会における起業による共有価値創造」

12:40～13:20 支部会、現状や今後のことなど、フリーな意見交換

13:30～17:00 発表会(11件の研究発表)

\*場所：岡山国際交流センター5F会議室(岡山市)

(<http://www.opief.or.jp/oicenter/access.html>)

## 九州・沖縄

担当地域：福岡、大分、佐賀、長崎、宮崎、熊本、鹿児島、沖縄

代表：嶋野武志

## ⑤研究部会

### 温泉・健康サービス部会

部会長：館逸志副会長

#### ◇温泉・健康サービス部会共催セミナー

日時：2018年11月15日(木) 13:30～16:45 受付13:00～

会場：東京文化会館4階会議室(JR上野駅公園口正面) 定員：70名(先着順)

地域活性学会研究大会のパネリストとしても登場いただいたアダム・フルフォードさんに再登場頂き、菊池市の江頭市長と対談。過疎の村の古老や自然を貴重な観光資源として活かしていこうというアダムさんに、温泉という日本独特の伝統療法により自然の中に抱かれる感交(KANKO)の魅力を論じて頂いた。インバウンドの次の展開は所謂ゴールデンルートから日本人の持つ繊細な美意識や自然と溶け込んだ生活美、生活様式を味わってもらふ秘湯や限界集落の棚田、そこに暮らす人々にある。

第82回月例研究会「ローカルインバウンドを極めて、感交(KANKO)と温泉」

出演者 講師 アダム・フルフォード(異文化コミュニケーター)

特別コメンテーター 江頭実(熊本県菊池市長)

定員 70名(申し込み先着順で定員になりしだい締め切り)

#### ◇温泉・健康サービス部会共催セミナー

日時：2018年12月21日(金) 13:30～16:45 受付13:00～

会場：東京文化会館4階会議室(JR上野駅公園口改札正面)

第83回健康と温泉フォーラム月例研究会「AI人工知能と温泉」

■ 講師 桜田一洋様

国立研究開発法人理化学研究所科学技術ハブ推進本部、  
医科学イノベーション推進プログラム副プログラムディレクター、(理学博士)  
(略歴) 大阪大学大学院理学研究科修士課程修了後、1988年に協和発酵工業(株) 東京研究所研究員。1993年大阪大学から理学博士の学位を授与。2000年から再生医療担当の主任研究員。2004年に Schering AG (会社合併によりその後 Bayer Schering Pharma AG) に移籍、ドイツ本社で再生医療担当本部長を務めるとともに日本シエーリング(株)(会社合併によりその後バイエル薬品(株))で執行役員神戸研究所所長を務める。2008年9月から(株)ソニーコンピュータサイエンス研究所上席研究員。2016年から現職

■ 講演要旨

一人ひとりにあった保健と医療と、すべての人が受けられる保健・医療サービスは持続可能な社会の実現のために不可欠な社会の目標である。日本ではすでにGDPの三分の一を社会保障費が占めており、高額な医療による問題解決を続けていくことはこれから困難になる。今後求められるのは、病気の発症を予防。できる新たな保健サービスである。これまで医学は身体を機械のアナロジーでとらえ、メカニズムによって生命現象や病気を説明してきた。しかし、健康は心と身体の調和によってもたらされるものであり、身体に対する機械的な介入では真の健康は実現できない。一方で、脳科学では脳の働きをロジック・マシーンと見なして理解することが続けられ、心は長い間、科学の対象とはならなかった。しかし近年のメンタライジング(心で心を思う)に代表される社会脳に関する仮説の提案や、人工知能を用いて心の多様性を層別化する技術によって、心を定量的に扱うことが可能になってきた。またナッジという手法によって、強制することなく生活習慣を変える技術も生まれている。温泉は心と身体の調和を実現する場であり、一人ひとりに最適な温泉の在り方をナッジすることで、新たな保健サービスの重要なプラットフォームとして、今後ますますその重要性が高まるものと考えられる。

■ プログラム

1330 講演

1500 休憩

1520 質疑応答

1645 閉会

- ・定員 70名 (先着順、定員なりしだい締め切ります)
- ・会費 2,000円(会員:日本健康開発財団、日本スパ振興協会、地域活性化学会、チーム新・湯治、健康と温泉フォーラム)
- 3,000円(一般) 無料(学生・報道関係者)

◇温泉・健康サービス部会共催セミナー

(健康と温泉フォーラム第89回月例研究会)  
日時:2019年8月27日(火)13:30~16:45 受付1300~  
会場:東京文化会館4階会議室(JR上野駅公園口正面)定員:70名(先着順)  
参加費:会員2,000円(主催者団体会員、チーム新・湯治(環境省)会員、温泉療法医学会会員)一般3,000円 報道・学生 無料  
テーマ:「自然と温泉その癒やしの環境学」  
since 1986-Nature and Thermalism for Cure of Soul in the post-wellness society-

■ プログラム

13:30-13:40 論旨説明

13:40-14:30 基調講演 下村彰男(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

14:45-16:45 パネルディスカッション「心と生命の原点として温泉地の創生」  
コーディネーター 坂本 誠(ローカルブランド・デザイン理事)  
パネラー 下村彰男(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)  
上口昌徳(山中の自然文化蘇生会議議長)  
谷口江里也(ヴィジョン・アーキテクト・詩人・建築家)

■ 基調講演講師

下村彰男(しもむら あきお)(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)  
専門分野は、造園学、観光・レクリエーション計画  
昭和30年兵庫県生まれ。昭和53年3月東京大学農学部林学科卒業  
昭和55年3月東京大学大学院農学系研究科林学専門課程修士課程修了  
昭和57年4月株式会社ラック計画研究所入社、昭和61年3月同社退社  
昭和61年4月東京大学農学部・助手(林学科 森林風致計画学講座)  
平成5年2月博士(農学)(東京大学)取得  
平成5年12月東京大学農学部・助教授  
平成8年4月東京大学大学院農学生命科学研究科・助教授、平成13年1月より現職

■ パネルディスカッション「心と生命の原点として温泉地の創生」要旨

国民の温泉に対する期待に答えるためには、温泉関係者が分野を超えて、温泉利用の社会的課題を産官学の叡智で正面から向き合わねばならないと思っています。温泉行政の退化や温泉医学研究の科学的評価の喪失など、過去、私達が同時代的に体験した厳しい社会環境は、温泉研究者や行政、産業界の横の連携の弱さが一つの原因と考えられます。経済優先の高度成長期に体験した同じ過ちを次世代に繰り返すことはできません。最近、宇宙彼方の惑星探査で水の発見、もしや生命の痕跡の発見か。地球で水(温泉)と生命の起源などロマンあふれる話題に事欠くことがありませんが、北陸の山中温泉では、生命再生装置としての温泉地の機能の見直しとその自然や伝統文化の蘇生運動が始まりました。九州の湯布院や越後の村杉温泉などの、近代的な温泉保養地計画を明治時代に提言した、本多静六博士(東京大学教授 林学博士・造園家)の山中温泉でのご縁を復活し、東大赤門(旧加賀百万石前田藩邸)の銀杏の苗木の移植を進める上口昌徳氏や、同じく加賀市出身の世界的な空間デザイナーの谷口江里也氏をパネラーにお迎えし、下村教授とご一緒に温泉地の自然と歴史や文化の蘇生と心の再生を議論した。

離島振興部会

部会長:小島愛之助(公益財団法人日本離島センター専務理事)

地域活性化メソッドロジー研究部会

部会長:村瀬博昭(奈良県立大学)

地域活性化メソッドロジー研究部会では、前年度に続き、地域活性化の多義性に関する検討を中心に活動を行った。「地域活性化」の言葉の意味は依然として多様であり、本学会においても明確に定義がされていない。社会では一般用語化している一方で、言葉の意味は統一されておらず、現在は意味を曖昧にしたまま多くの場面で用いられている。

2017年度の部会の活動では、地域活性化の言葉の多義性について、研究者や実務家など20~30名の会員から60以上の意見をいただき共通認識を探索した。2018年度の部会では、いただいた意見を取りまとめて再度整理し、地域活性化の言葉の意味について用いられている傾向を分析した。2019年度では整理・分析した内容を再び会員の皆様にご確認いただき、共通認識を探索する議論と検討を進めていく予定である。

## スポーツ振興部会

部会長：御園慎一郎 副会長

少子高齢化が急速に進むなか、スポーツを通じて健康づくりや生きがいづくりを図ろうとする人たちが増加している。また、余暇時間の増大、学校週5日制の定着やゆとり教育などの社会情勢により、ニーズの多様化など、人々を取り巻く環境も大きく変化し、地域が果たすべく役割も変化とともに益々重要さを増している。このような状況の中、スポーツ振興法に基づく「スポーツ振興基本計画」が策定されたことも大きな追い風となって、スポーツを通して体力づくりと健康増進をはかり、友愛と協調の輪に支えられた活力ある地域社会を作る動きが全国の様々な地域で広がりをを見せている。また、このようなスポーツに対する関心の高まりを受けて、スポーツと観光を結びつて地域を超えた交流とスポーツの振興を目指すいわゆるスポーツツーリズムに地域活性化の有力な方策として期待が高まっている。「スポーツ振興部会」はこのようなスポーツを通じた地域活性化の動向を文部科学省、観光庁等との連携の上で研究するとともに、わが国におけるスポーツ文化の育成とそのために必要とされる政策の立案、提言に向けた検討を目的として幅広いメンバー参加を募りたい。

## 地域おこし研究部会

2018年3月7日に都道府県単位での地域おこし協力隊の支援体制、人材確保の課題について部会の中心メンバーと岡山県の協力隊有志が集まりディスカッションイベントを実施。都道府県単位での支援体制のあり方や、卒業した隊員同士の連携など図っていききたい。

部会長 藤井裕也 (NPO 法人 山村エンタープライズ代表)

副部会長 那須清吾 (地域活性学会常任理事 高知工科大学教授)

齊藤俊幸 (地域活性学会評議員 地域再生マネージャー)

事務局 藤井裕也 (地域活性学会員 NPO 法人代表)

部会事務局 小埜洋平 (神石高原町地域おこし協力隊)

特別顧問 大宮登 (地域活性学会元会長 高崎経済大学教授)

メンバー 藤井裕也 (元美作市地域おこし協力隊)

村上勇太 (神石高原町地域おこし協力隊)

小埜洋平 (神石高原町地域おこし協力隊)

野口拓郎 (元三次市地域おこし協力隊)

秋吉直樹 (香川県地域おこし協力隊)

河内佑真 (安芸太田町地域おこし協力隊)

## 公益資本主義推進研究部会

部会長：館逸志 副会長

副部会長：町野弘明 (一般社団法人ソーシャルビジネスネットワーク 専務理事)

原田謙介 (特定非営利活動法人 YouthCreate 代表理事)

事務局 寺田耕治 (株式会社フォーバル 常務取締役)

特別顧問：大久保秀夫 (一般社団法人公益資本主義推進協議会 会長)

村尾信尚 (関西学院大学教授 NEWS ZERO メインキャスター)

全国各地でマイコミュニティフォーラムを開催

◇第10回全国大会における研究部会セッション

日時：9月15日(土)16時20分から

「公益資本主義推進研究部会」「温泉健康サービス部会」「離党振興部会」「官民パートナーシップ部会」合同開催。島根県浜田市久保田章市長が参加。部会を超えた様々な構成員が集まり、各分野で推進している事案を、相互理解し連携を模索することで、さらなる活動推

進を期待した。研究推進委員会と各部会活動の現状説明について館副会長から説明があり、官民パートナーシップ部会の活動状況について関幸子理事が登壇。温泉・健康サービス部会の活動状況について、健康と温泉フォーラム合田専務理事が登壇。地域活性メソドロジー部会からは村瀬部会長が登壇。離島振興部会のためのビジネスモデル提案として児山会員から説明。最後は公益資本主義推進研究部会として須田がファシリテートする形で、中小企業経営者がどのようにして地域活性化を仕掛けるのかというテーマで事例を交えながら発表。中小企業経営者が地域活性化活動を推進している事例として、まちづくり会社設立やブランド化支援のほか、連携団体である一般社団法人公益資本主義推進協議会から大阪支部の佐藤岳登様が地域事業者や住民と連携している事例、東京支部から大塚雅之支部長が学生団体や他団体と連携して活動拡大している事例が発表された。

## 官民パートナーシップ研究部会

部会長：根本祐二 監事

## 国際交流部会

部会長 吉川智教 (元早稲田大学教授)

地域活性学会国際交流委員会(委員長：吉川智教理事)では、毎年、ウッデバラシンポジウムで単独のセッション(部会)を開催。2019年6月27日・29日の3日間、イタリア、ラクイラで開催。Uddevalla Symposium 2019 組織委員会から、6月のイタリア、ラクイラ大会の共通テーマは Unlocking the Potential of Regions Through Entrepreneurship and Innovation。地域活性学会国際交流研究部会では、Kinds of Regional Resources that Contribute Innovation and Creation of New Industries という Session を設定。『イノベーションや新産業創出に貢献する特定の地域の資源と何か』というセッションのテーマで分析を試みた。特に、地域経済の活性化、所得不平等、の問題を解決する方法としてイノベーション、新産業創出の意義は高いと理解している。

## ミュージアム・シティ構想研究部会

部会長：福留 強 (NPO 法人 全国生涯まちづくり協会 理事長/聖徳大学 名誉教授)

・構成メンバー

理事 宇津井 輝史

(元・東京商工会議所 常務理事/現・一般社団法人 日本文化教育推進機構 顧問)

理事 小野寺 健

(株式会社 談広告 代表取締役/一般社団法人 日本文化教育推進機構 理事)

理事 山中 靖裕 (ユニバーサル・アドワークス株式会社 代表取締役)

理事 片山 聖一 (合同会社 DIPPS 代表社員)

理事 齊川 満 (株式会社 サイモンズ 代表取締役社長)

事務局 田代 綾 (株式会社 談広告/一般社団法人 日本文化教育推進機構)

事務局 松本 多喜子 (株式会社 談広告/一般社団法人 日本文化教育推進機構)

## ⑥研究誌「地域活性研究 Vol.10」(ISSN-2185-0623)

発行日 2019年3月31日 発行形式 Web版で発行、紙媒体は国立国会図書館等に納本。査読付研究論文4報、査読付研究ノート12報、査読なし事例報告22報を掲載。

## ⑦ニュースレター

電子メールにて全会員に配信。2018年9月総会以降No.239~250まで計11回発行。

(2) 会員の状況 (2019年9月10日現在・敬称略)

(単位：人)

会員種別	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
個人会員	807	772	738	703	669
学生会員	155	146	134	91	46
団体会員	18	22	20	20	19
合計	980	940	892	814	734

【団体会員】18 団体

企業・団体

株式会社エムシージャパン  
 一般社団法人公益資本主義推進協議会  
 株式会社生活構造研究所  
 せたがや自治政策研究所  
 全国ソフトウェア協同組合連合会  
 株式会社高取測量設計事務所  
 ダズリング・ナイン株式会社  
 公益財団法人東北活性化研究センター  
 株式会社 Fortune&Success 岡山 office  
 医療法人和陽会

市町村

伊達市（北海道）  
 錦江町 まち・ひと・MIRAI 創生協議会

大学

大谷大学図書館  
 沖縄大学地域研究所  
 高知工科大学  
 法政大学地域研究センター  
 松本大学  
 九州女子大学・九州女子短期大学

2. 第1号議案 2018年度決算承認の件

地域活性学会 2018年度収支報告書

2018年4月1日～2019年3月31日

収入の部	単位=円			
	予算	決算	差額	備考
年会費収入	7,000,000	7,087,500	87,500	
大会参加費	2,000,000	1,692,000	-308,000	第10回研究大会(拓殖大学)
大会開催地補助金等	0	0	0	
セミナー参加費	0	0	0	
研究誌掲載・冊子収入	100,000	94,000	-6,000	研究誌販売収入
利息収入・雑収入	0	84	84	預金利息
合計	9,100,000	8,873,584	-226,416	

支出の部	単位=円			
	予算	決算	差額	備考
大会開催費 ※	3,000,000	3,064,563	64,563	第10回研究大会(拓殖大学)
学会誌出版費	800,000	555,450	-244,550	学会編集委員会費用
10周年特別事業	2,000,000	1,913,219	-86,781	10周年記念誌、動画(150万)、記念事業(50万)
印刷費・通信費	300,000	2,910	-297,090	電報代
セミナー部会費・支部活動費	1,000,000	295,010	-704,990	地方創生セミナー開催費、支部活動、部会活動への補助
送料	150,000	107,844	-42,156	会員への各種送付物
会合費	20,000	55,952	35,952	会議費
消耗品費	100,000	71,193	-28,807	封筒、事務局用消耗品
支払手数料	250,000	231,701	-18,299	自動引落システム手数料、振込手数料等
事務委託費	2,730,000	2,662,050	-67,950	年間収入×30%
旅費交通費	300,000		-300,000	
合計	10,450,000	8,959,882	-1,490,108	

収支

	予算	決算	差額
当期収支	-1,350,000	-86,308	1,263,692

※ 大会関係支出

費目	金額	備考
謝金	65,685	招待講演者、パネリスト 3名
旅費交通費	50,000	特別講演者・パネリスト・事務局
懇親会費	668,352	交流懇親会
運営費	1,360,486	会場看板制作費、備品レンタル、スタッフ弁当代
学生アルバイト	150,000	運営スタッフ7名
印刷費	770,040	大会論文集
計	3,064,563	

地域活性学会 2018年度決算報告書

貸借対照表

2019年3月31日現在

単位=円

資産・負債別/科目		金額	備考	
資産の部	流動資産	普通預金(三菱東京UFJ)	5,761,022	
		流動資産合計	5,761,022	
資産合計		5,761,022		
負債の部	流動負債	未払金	262,050	
		預り金	40,932	謝金源泉税
		流動負債合計	302,982	
		負債合計	302,982	
正味財産の部		5,458,040		
(うち当期収支差額)		-86,308		
負債及正味財産合計		5,761,022		

監査報告書

地域活性学会  
会長 中嶋 聞多 殿

当学会の2018年4月1日から2019年3月31日までの収支報告書及び、2019年3月31日現在の貸借対照表は、当学会の状況を正しく示しているものと認めます。

2019年 4月 日

公認会計士 平野 毅





### 3. 第2号議案 2019年度予算案・事業計画案承認の件

#### (1) 予算案

地域活性学会 2019年度予算書				
2019年4月1日～2020年3月31日				
				単位=円
収入の部				
	2019年度予算	昨年度実績	昨年度実績比	備考
年会費収入	7,000,000	7,087,500	87,500	
大会参加費	1,800,000	1,692,000	-108,000	第11回研究大会（大村市）、昨年度は第10回拓殖大学
大会開催地補助金等	600,000	0	-600,000	大村市負担金、昨年度拓殖大学は負担金無し。
研究誌掲載・冊子収入	100,000	94,000	-6,000	研究誌販売収入
利息収入・雑収入	0	84	84	預金利息
合計	9,500,000	8,873,584	-626,416	
支出の部				
	2019年度予算	昨年度実績	昨年度実績比	備考
大会開催費 ※	3,000,000	3,064,563	64,563	第11回研究大会（大村市）、昨年度は第10回拓殖大学
学会誌出版費	600,000	555,450	-44,550	学会編集委員会費用
10周年特別費	0	1,913,219	1,913,219	2018年度の決算確定額
e-システム導入運営費	129,600	0	-129,600	2019年度より導入運営開始
学会HPシステム開発費等	2,000,000	0	-2,000,000	理事会承認済。
印刷費・通信費	432,000	2,910	-429,090	サーバー費と更新作業費
セミナー部会費・支部活動費	1,000,000	295,010	-704,990	地方創生セミナー開催費、支部活動、部会活動への補助
送料	150,000	107,844	-42,156	会員への各種送付物
会合費	20,000	55,952	35,952	会議費
消耗品費	100,000	71,193	-28,807	封筒、事務局用消耗品
支払手数料	250,000	231,701	-18,299	自動引落システム手数料、振込手数料等
事務委託費	2,730,000	2,662,050	-67,950	年間収入×30%
旅費交通費	300,000	0	-300,000	
合計	10,711,600	8,959,892	-1,751,708	
収支				
	予算	決算	差額	
当期収支	-1,211,600	-86,308	1,125,292	

#### (2) 事業計画案

1. これからの地域活性学会について（中嶋会長）
2. 研究大会の開催  
第12回大会の開催（金沢星稜大学）
3. 研究誌の発刊  
「地域活性研究 Vol.11、12」の発刊（2019年9月、2020年3月発刊）
4. エリア（支部）活動の充実、活発化
  - ・北海道
  - ・東北
  - ・関東
  - ・中京
  - ・北陸
  - ・関西
  - ・中四国
  - ・九州・沖縄
5. 地方創生セミナーの開催
6. 研究部会活動の充実

## 地域活性学会役員

任期:2021年総会迄

	役職	氏名	所属	委員会	エリア(支部)
1	特別顧問	清成忠男	法政大学		
2	特別顧問	大宮登	高崎経済大学		
3	会長	中嶋聞多	信州大学		
4	副会長	小野浩幸	山形大学		
5	副会長	木村乃	関東学院大学		
6	副会長	御園慎一郎	大阪大学		
7	副会長	那須清吾	高知工科大学		中四国◎
8	理事	青柳一郎	内閣府		
9	理事	池田幸應	金沢星稜大学		北陸◎
10	理事	伊藤一	小樽商科大学		北海道◎
11	理事	内山大史	弘前大学		東北◎
12	理事	鵜飼宏成	名古屋市立大学	研究推進◎	中京◎
13	理事	Emanuel Leleito	名古屋大学		
14	理事	岡本義行	法政大学		
15	理事	小野寺純治	岩手大学		
16	理事	久保田章市	浜田市長		
17	理事	黒瀧秀久	東京農業大学		
18	理事	斉藤俊幸	イング総合計画		
19	理事	佐藤暢	高知工科大学		
20	理事	嶋野武志	長崎大学		九州沖縄◎
21	理事	関幸子	ローカルファースト研究所		関東◎
22	理事	永井真也	室蘭工業大学		
23	理事	西川洋行	県立広島大学		
24	理事	根本祐二	東洋大学		
25	理事	橋本行史	関西大学		関西◎
26	理事	林美香子	慶應義塾大学		
27	理事	林靖人	信州大学	学会誌◎	
28	理事	藤井裕也	山村エンタープライズ		
29	理事	前野隆司	慶應義塾大学		
30	理事	松本敦則	法政大学	広報・交流◎	
31	理事	松本茂樹	兵庫大学		
32	理事	村瀬博昭	奈良県立大学		
33	理事	保井俊之	慶應義塾大学		
34	理事	山崎泰央	石巻専修大学		
35	理事	山本尚史	拓殖大学	総務・企画◎	
36	理事	山本祐子	法政大学		
37	本部理事	桂信太郎	高知工科大学		
38	監事	石川秀樹	サイバー大学		
39	監事	穂刈俊彦	あおぞら総研		

(順不同・敬称略) ◎委員長

## 5. 次回研究大会開催校

地域活性学会第12回研究大会・総会(金沢)

日時:2019年9月11日(金)~13日(日)

会場:金沢星稜大学

実行委員長 池田幸應氏(金沢星稜大学教授)

### 地域活性学会

事務局(加藤・寺尾)

〒785-8515

高知県高知市永国寺町6番28号

高知工科大学 地域連携棟4階

社会マネジメントシステム研究センター内

TEL:088-821-7211

メール chiiki@mpd.ac.jp

URL <http://www.hosei-web.jp/chiiki>